

地域母子保健事業の効率化に関する総合的研究

小野寺伸夫 *

石川英雄 2* 小山 修 3*

小野田薫 4* 加藤邦夫 5*

斉藤 進 6* 吉村英子 7*

曾我晃一 8* 深谷志成 9*

岡安俊明 10*

要 約：市町村における母子保健事業の効率化について、基本となる概念設計を主体とした研究を方向づけた。とりわけ、「いま何故、市町村母子保健事業の効率的実施が問われるのか」の課題を設定し、地域科学、政策科学、情報科学等の視点から背景構造および動向分析等を試みた。概念設計に必要な基本事項、課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸事項の総括検討を行った。とくに市町村母子保健事業に焦点をおきつつ、地域政策発展について行政上指導的あるいは調整的役割を有する都道府県を主体に検討し、地域特性要件の検討を通じ、温もりのあるパイロット地域モデル研究の基礎的条件を明らかにした。

見出し語：地域母子保健、効率化、概念設計、温もり、地域モデル

研究方法：本研究をすすめるに際し、「いま何故、市町村母子保健事業の効率的実施が問われるか」の課題を設定し、諸関連背景構造等の分析およびモデル研究の基礎的条件を踏まえ、母子保健サービスの効率的実施に必要な新たな基礎理論を構築することを試みた。

また、概念設計に必要な基本事項、課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸点を包含した総合的視点から研究マスタープランの検討を行った。

研究マスタープランに基づき、母子保健有識者等を通じ関連文献諸情報の分析を行い、母子

* 8* 9* 10*武蔵丘短期大学 2*(株) 富士総合研究所 3* 6*恩賜財団母子愛育会

4* 順天堂大学医学部 5*(財) 仙台市健康福祉事業団 7* 文部省

保健、法律制定、効率的実施に必要な新たな基礎理論を構築すべく検討を行った。

同時に、政策実施、効率運営、保健技術の動向について考察を深め、環境条件適合理論を踏まえ、理論構築に重要な課題である地域特性に着目し、「地域特性に適合した母子保健サービスをどのような基本構想にて展開するか」について総合的な視点から研究を行った。

さらに、地域特性を静態的に捉えるだけでなく、変動する社会経済の動向を踏まえた動態的把握を可能にするパイロット地域モデル研究の基礎的条件について総括討議を行った。

結 果：わが国の母子保健は、人々の共通の願いである温もりのある生活の基本として発展をみてきた。

また、母子保健行政は国民の英知と的確な行動を通じ、政策の根幹に位置づけられ国民生活に大きな影響を与えてきた。

とりわけ、今日わが国の国際社会における高い位置づけを持つ表現の一つとして母子保健に関する諸指標の水準の高さが上げられてきた。

しかるに、かかる政策発展の過程において母子保健に関する行政責任にあり方をめぐって位置づけを異にしてきた。すなわち、時には保護救済、富国強兵、社会福祉、人権尊重、地方自治など政策の重点の置き方によって責任所在の転換を余儀なくされてきたことは否定できない。また、母子保健について基本となる考え方や責任のあり方について、かかる普遍妥当性を求めることは当然なことであるといえる。

しかし、この間の人口構造の構造の高齢化、

少子化、女性の高学歴化、M字型人生と言われる女性社会進出、晩婚化・非婚化など婚姻機会の変容傾向、住民意識・育児環境の変化や多様な保健情報の普遍化、地方自治体の行政機能の多次元化、保健技術の向上等母子保健をめぐる背景構造は大きく変容している。

一方において、母子保健について主体をとすれば母と子におき、サービスの受け手として位置づける傾向がある。また、地域政策においても母子保健を消費的構造に位置づけ、総合的発展計画からの路線が必ずしも明確ではない。

そうしたことから、国民生活にきわめて重要な路線としてのサービスの受け手である生活者の立場を重視し、生涯を通じた健康づくり体制の整備と地方分権を推進する旗印のもとに地域保健法が制定され、母子保健法の改正が行われた。

それらのなかで、「いま何故、市町村母子保健事業の効率化が問われるのか」について自問自答せざるをえないことは確かである。

本来、法制定や改正以前に自治の主体性とは何か、広域自治（都道府県）と基礎自治（市町村）の受けとめの差異はどうか、母子をサービスの受け手としてのみ効率化が考慮されてよいのか、ニーズに対応する計画と行政資源をどのように考えているのか等を含めた検討を行うことはきわめて重要となることを明らかにした。

また、母子保健は多くの課題を抱える事業のなかでも比較的完成度の高いものであるが、基礎自治体への権限委譲にともない効率化問題の新たな展開として、地域母子保健をめぐる社会

経済変動や母子保健事業の有効性・能率性に関する要因分析、基本となる健康教育・人材開発機能の重視等の基本項目を通じ、その課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸点について総括的考察は、欠かせないところであることを明確化し、具体的には次の諸点を提示した。

(1). 母子保健行政の相対的な低下傾向およびリプロダクション・ヘルスの多様な問題点への対応を考慮すること。

(2). 地域保健法制定等にもなう基礎的自治行政責任と業務量の増大と保健関係業務調整の必要性があること。

(3). 科学技術・情報システム発展に関連する構造調整をめぐり、母子保健有効情報の選択と地域住民の要請に適合させること。また、その地域モデルの効率化を図る目的としての一次、二次、三次機能のネットワーク化、その流れを効率的かつ最大の費用効果において計画、実行、管理する一連のロジスティク・システムとハイリスク群の情報管理システムのあり方と判断条件を設定すること。

(4). サービスの有効性・能率性に関する見解および効率化測定の指標・影響要因の分析指標等の科学的根拠を示し、それらの把握を行うこと。

(5). 母子保健発展に関する健康教育および人材開発に必要なリーダーシップと支援機能の整備について、体系的試みを行う。

もとより、地域母子保健事業にかかわる親子・家族ともに地域の貴重な存在であり、将来を担う有効な社会資源でもあり、行政制度の変革

のみで「効率化」をすすめるべきではない。

とくに、基本となる母子保健事業の有効性・能率性を意図するところに、母子をはじめ地域の人々への「温もり、思いやり」を基に心と知性を育む事業の推進でなければならない。

多様化、国際化社会における情報マルチメディアの広がりを考慮し、保健医療福祉の総合的連携はそれなりの役割もあり、地域との融和ならびに地域活性化の一つの象徴として、本事業の質的充実を通じて地域に位置づけられるよう施策を方向づけるところに地域発展の基盤づくりとなることを十分意識すべきである。

考 察：母子保健事業は、もとより親子・家族ともに地域の発展の貴重な位置づけをもち、未来社会形成の連帯を高め、有効な社会資源であることから、行政制度の変革のみで効率化を論ずるべきではなく、地域の実情に応じた温もりのある施策を充実させることが基本となる。かような視点を包括した効率化方策の概念を設計するため、地域モデルによる継続した調査を通じた母子保健事業の推進を図る検討が必要視されているのである。

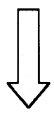
文 献：

- (1) 昭和61年度「地域母子保健の向上に関する衛生行政学的検討」、小野寺伸夫、1986。
- (2) 平成元年～3年度「母子保健事業の効率的運用に関する研究」、小野寺伸夫他、1989、1990、1991。

「市町村における母子保健事業の効率的実施に関する研究」

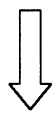
地域母子保健事業の効率化に関する総合的研究





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:市町村における母子保健事業の効率化について、基本となる概念設計を主体とした研究を方向づけた。とりわけ、「いま何故、市町村母子保健事業の効率的実施が問われるのか」の課題を設定し、地域科学、政策科学、情報科学等の視点から背景構造および動向分析等を試みた。概念設計に必要な基本事項、課題点、効率的実施の方針および今後予測される諸事項の総括検討を行った。とくに市町村母子保健事業に焦点をおきつつ、地域政策発展について行政上指導的あるいは調整的役割を有する都道府県を主体に検討し、地域特性要件の検討を通じ、温もりのあるパイロット地域モデル研究の基礎的条件を明らかにした。